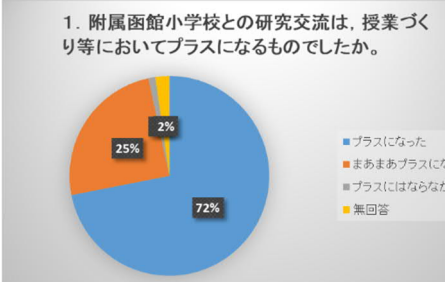
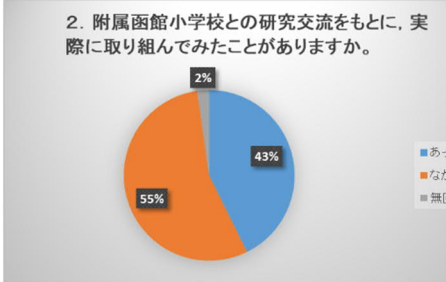


令和2年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進経費 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援経費 <input type="checkbox"/> 個人研究支援経費																			
プロジェクトの名称	附属函館小学校による教育実践研修センター機能を生かした地域小学校との連携 実践研究																			
報告者氏名・所属・職名	阿部 智・附属函館小学校・教諭																			
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	北村 博幸・附属函館小学校・校長 三上 清和・教職大学院・特任教授 山口 好和・函館校・准教授 新谷 公康・函館市立北美原小学校・校長 高間 猛・函館市立中島小学校・校長 五十嵐義幸・附属函館小学校・副校長 神野藤 均・附属函館小学校・教諭 鎌田 尚吾・附属函館小学校・教諭																			
研究内容及び成果の概要																				
<p>本研究は、地域の小学校が抱えている教育課題を解決するための専門的知見を有している大学・教職大学院の教員が、教育実践研修センターの機能を活用することによって地域の小学校を効果的に支援することができることを検証すること。また、それによって附属函館小学校と地域の小学校との研究交流事業の際に課題として挙げられていた理論的背景並びに物的環境等に対する課題が改善され、地域の小学校における研修機能が物・質両面で向上できることの検証を目的とした。</p> <p>成果としては、実績として当初予定の市内2校に加え市内1校・市外6校との研究交流を行い、研修回数約30回、参加人数約587名となった。各校へアンケート調査を行い以下のような結果を得た。</p>																				
<p>1. 附属函館小学校との研究交流は、授業づくり等においてプラスになるものでしたか。</p>  <table border="1"> <caption>1. 附属函館小学校との研究交流は、授業づくり等においてプラスになるものでしたか。</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ プラスになった</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>■ まあまあプラスになった</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>■ プラスにはならなかった</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>■ 無回答</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>		回答	割合	■ プラスになった	72%	■ まあまあプラスになった	25%	■ プラスにはならなかった	2%	■ 無回答	1%	<p>2. 附属函館小学校との研究交流をもとに、実際に取り組んでみたことがありますか。</p>  <table border="1"> <caption>2. 附属函館小学校との研究交流をもとに、実際に取り組んでみたことがありますか。</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ あった</td> <td>43%</td> </tr> <tr> <td>■ なかった</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>■ 無回答</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	■ あった	43%	■ なかった	55%	■ 無回答	2%
回答	割合																			
■ プラスになった	72%																			
■ まあまあプラスになった	25%																			
■ プラスにはならなかった	2%																			
■ 無回答	1%																			
回答	割合																			
■ あった	43%																			
■ なかった	55%																			
■ 無回答	2%																			
<p>附属函館小学校を研修の核として、大学・教職大学院教員・附属小学校教員・地域公立小学校学校教員の3者が、連携協力しながら、授業開発を中心とする研修を繰り返すことにより、授業開発の面において、9割以上の高評価を得た。一方、自校において研修で得た知見を実際にいかすことは4割にとどまり、理論的深まりだけでなく、実践可能な研修への取組を今後も追究していく必要があることが分かった。本研究では、zoomによる研修を取り入れ、100名以上の参加人数に及ぶ研究会も開催した。大学・教職大学院教員の専門的知見による支援が、物的機能を向上させ、リモート研修の成功事例として地域公立小学校へ発信できる成果が得られた。</p>																				
成果の公表の状況																				
<p>【学会発表】鎌田尚吾「概念形成を支える単元構成の工夫 - 子供の思考活動を手がかりに -」（日本生活科・総合的学習教育学会 自由研究発表 2020年11月14日）</p>																				
教育現場で活用可能な分野・教材等																				
ICTを活用した授業開発 遠隔地における学校間の研修																				
配布又はダウンロード可能な資料	令和2年度北海道教育大学附属函館小学校 研究紀要 第40号「子供が学びをつくる学校～自己を見つめ、学びの主体者となる子供」（ISSN 2436-0457）																			
問い合わせ先	代表者：阿部 智 電話：0138-46-2235 FAX：0138-47-7376 mail：abe.satoru@h.hokkyodai.ac.jp																			